仙台市市民活動サポートセンター通信

ぱれっと

6月 2013 No.166

“ぱれっと”にはサポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

P2～P3　協働のまちづくり SENDAI ▷
市民団体 × 行政　**これからの防災**

P4　復興へのあゆみ　▷　**生活の中にある復興支援　ー ままふあ会 ー**

P5　つながる つなげる サポセン　▷　**NPO いろは塾**

P6　仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

協働のまちづくり SENDAI

社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

市民団体 × 行政 **これからの防災**

現在、市民協働による地域防災推進実行委員会と仙台市（ 市民局・消防局 ）の協働で、「日常の備えの大切さ」を学ぶツール「仙台版体験型そなえゲーム」の制作が進められています。5 月 28 日に行われた「せんだい市民カフェ　市民と行政が一緒に課題解決ってどういうこと？」では、関係者から制作秘話の発表がありました。今回はその中から市民協働について考えていきます。

◀「仙台版体験型そなえゲーム」制作秘話について話す登壇者 (右から)

仙台市消防局 減災推進課・防災企画課　鈴木 さん・荒木 さん
市民協働による地域防災推進実行委員会　代表 小岩さん , 庄子さん
仙台市市民局市民協働推進課　植木 さん

【聞き手】プロジェクト検討会 (※) 座長　榊原さん
(NPO 法人都市デザインワークス代表理事※プロジェクト 検討会では、市民協働事業提案制度に参加する団体の審査・助言・評価等を行っています)

「仙台版体験型そなえゲーム」とは？

市民協働による地域防災推進実行委員会が、「震災の中で得た気づきを、未来の子どもたちへ伝える・全国へ発信し、役立ててもらう」ために提案しました。

平成 24 年度の市民協働事業提案制度パイロットプロジェクト採択事業で、市民団体と仙台市の「協働」によって制作された、「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か」について学べる参加型ボードゲームです。仮想の“ある町”の“ある人” になりきって「あったらいいな」「できたらいいな」と思う災害への備えを考えます。

市民協働事業提案制度とは？

地域の身近な課題について、市民団体などの提案をもとに、仙台市との協働で解決していく制度です。団体の専門性やネットワークを生かし、仙台市とともに取り組むことで、地域のニーズにこたえることが見込める事業提案を、平成 24 年度より募集しています。

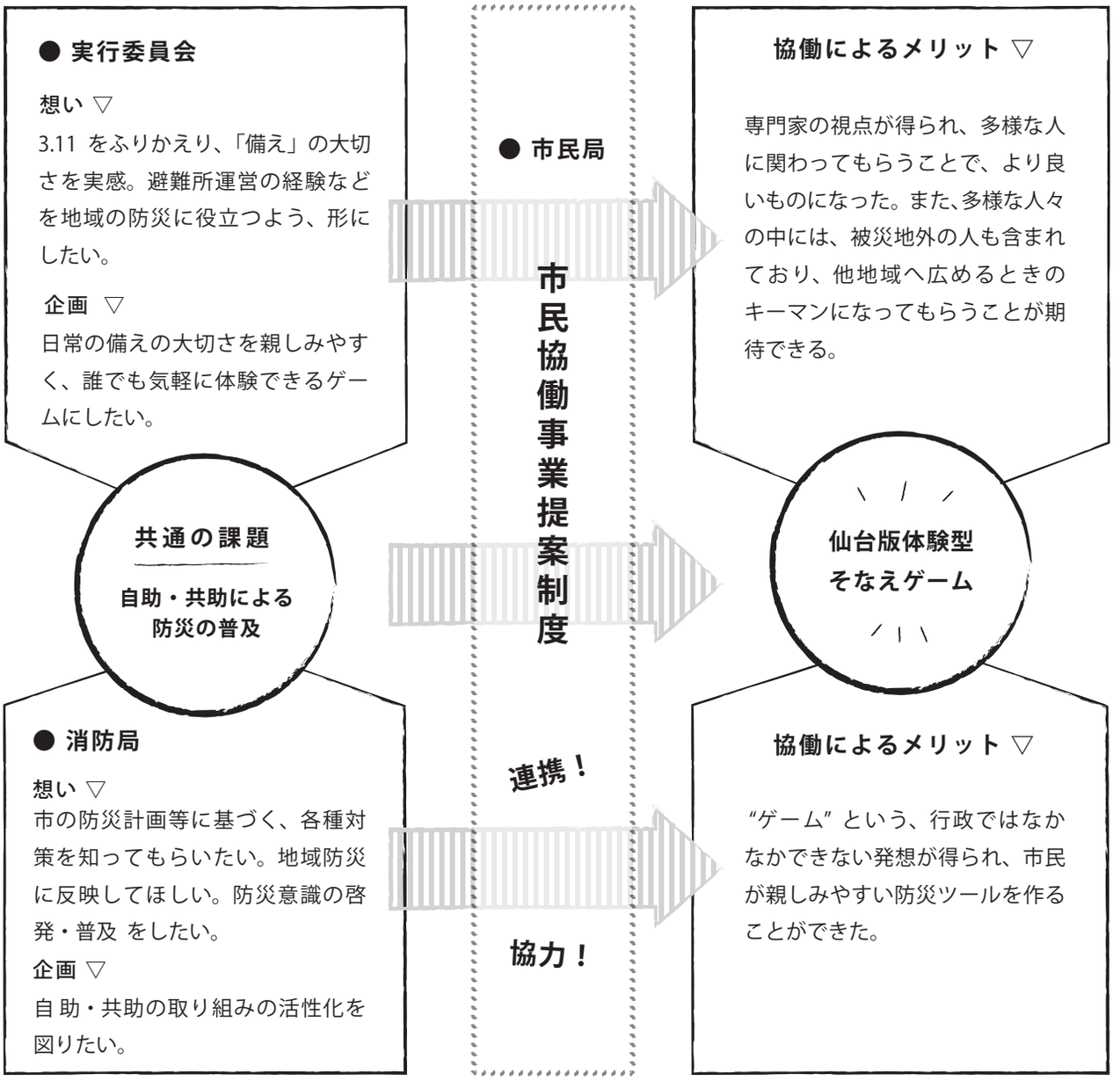
【仙台市からのお知らせ】
平成 26 年度協働事業提案を募集します！詳しいスケジュールは、仙台市ホームページをご覧ください。

http://www.city.sendai.jp/manabu/shimin/kyodo/1209161_2613.html

【お申込み・お問い合わせ先】
仙台市市民局市民協働推進部 市民協働推進課
仙台市青葉区二日町 1-23 二日町第四仮庁舎
(アーバンネット勾当台ビル 2 階)
TEL：022-214-8002　FAX：022-211-5986

協働のポイント

今回の協働では、「震災の教訓を未来に生かしたい」という想いと「地域防災のための自助・共助の活性化」という方向性の一致が大きなポイントになっています。



協働を進めるにあたって、大切なのがそのプロセスです。協力して地域の課題解決へ向かうことで、相乗効果が期待できます。「仙台版体験型そなえゲーム」は、再度改良し年内に完成する予定だそうです。地域や学校での防災教育にピッタリだと思うので、完成が楽しみです。（菅野祥子）

せんだい市民カフェとは？

これからのまちづくりについて市民の皆さんがカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、自由に語り合い、それぞれ「何ができるか」を一緒に考える場です。ワークショップ、パネルディスカッションなど、さまざまな手法を用いながら、2011 年 7 月からこれまで、多様なテーマで参加者の皆さんとまちづくりを考えてきました。今回は市民と行政の協働による課題解決について考えました。

団体紹介

市民協働による地域防災推進実行委員会
代表：小岩 孝子 さん

HP:http://www.k4.dion.ne.jp/~nikoniko/pilotproject.html

復興支援活動を行う NPO や市民活動団体、地域の活動を発信し、新しい時代のこと、これからの社会のこと、未来のことを考えていきます。

生活の中にある復興支援

ままふあ会は、のびすく仙台で読み聞かせ等を行うボランティア「ママボラ」で活動していたママたちが始めた復興支援活動のグループ。「誰でも、遠く離れていても、小さな子どもがいても、たくさんのお金が無くても、あなたの気持ちが届きますよ」という想いを「私にでもできる復興支援」という冊子を通して発信しています。冊子を制作した、ままふあ会の代表荒澤けい子さん（写真右）と広報の長﨑美知さん（写真左）にお話を伺いました。

誰でもが継続して行える活動を

2012 年 1 月、震災を忘れないために企画したイベントで制作した冊子が好評で、以降、第 2 弾、第 3 弾と継続した活動となりました。

冊子には、震災の復興・復旧に直接支援（寄付）となる企業の商品や、復興地区の商品、復興地区への支援情報が掲載されています。「私たち主婦でも気軽に買えるもの、普段使いができるものを掲載しています。生活の中でもできる復興支援だからこそ、誰でもが継続して行えると思っています」。

奮闘するママたち

読者から「日頃の買い物の仕方が変わった」「目線が変わった」との感想があり、当初の想いがきちんと伝わっていることを実感しているそうです。「冊子に掲載する以上責任がありますから」と、読者の声に応える商品選びは妥協しません。「この商品にこの値段払える？」など、編集会議では家計を預かる主婦の視点から厳しい商品チェックを行っています。商品の中には、自らが被災地に出向いて見つけたものもあります。取材や承諾を得る作業など、編集もこなすママたちには、家庭との両立も課題のひとつだったそうです。

風化させない強い想い

今後の予定は、6 月の上旬に第 4 弾の発行。仙台市内ののびすくなどに配架されるほか、ホームページからのダウンロードも可能です。ままふあサポーターになると、発行される冊子が一年間送付されます。そして、10 月にはイベント「ママとキッズの復興マルシェ」を開催。

「東北の被災地は、まだまだ復興の途中です。『3.11』が風化しないためにも、もっと全国に現状を伝えていきたいと思っています」。そのための活動、情報発信はこれからも続けていくという強い意志が感じられました。「ママたちが、できることをできるだけの力で続けてきた活動です。これからも未来を見つめながら、復興と向き合い、支援の形を作り続けていきたいと思います」。

（田口博徳）

団体紹介

ままふあ会

代表：荒澤 けい子 さん

▷ ままふあサポーター募集中！ 1,000 円 /1 口

ままふあ会では、共に復興支援する「ままふあサポーター」を募集しています。お預かりした資金は冊子制作費に充て、サポーターには 1 年間冊子を発行ごとに 1 冊お届けいたします。

第 4 弾近日発行！

▷ お問い合わせ

E-mail:mamafuasendai@yahoo.co.jp
HP:http://www.geocities.jp/mamafuasendai/

つながる
つなげる
サポセン

NPO いろは塾

「NPO ってよく耳にするけれど、何をしているの？どんな団体なの？」NPO いろは塾は、このような疑問をお持ちの方におすすめの講座です。サポセンスタッフが、NPO の基礎知識や、サポセンの活用方法を 90 分でお伝えします！

5 月 23 日 (木)19:00 ～ 20:30

今年度 1 回目の「NPO いろは塾」を開催しました！

これから社会の役に立ちたいと考えている退職前後の方、ボランティアに興味がある学生の方、NPO に関わり始めたばかりの方など、年代も職業もさまざまな 14 人の方々が受講してくださいました。

▲ 講義の様子

今さら聞けない NPO の基本がすっきりわかります！

まず、講義は NPO や非営利の定義などの基礎知識から。次に情報の集め方や参加方法など、はじめの一歩の踏み出し方について事例を紹介しながらお伝えしました。また、配布資料には、NPO について知るのに役立つ情報が盛りだくさん。昨年度サポセンから発行された『3.11 からの支援のかたち』には、約 200 の団体が掲載されており、震災後に活動するさまざまな NPO を知ることができます。

サポセンガイドツアーでは、スタッフが館内をご案内しながらサポセンの活用術を伝授。サポセンに来たのは初めてという方も、館内にある市民活動団体のチラシやニューズレターなどから、欲しい情報を見つけられるようになります。

▲ サポセンガイドツアーの様子

受講後のアンケートでは、「NPO について理解を深めることができました」という感想や、「何度かサポセンに通い、情報収集したいです」「立ち上げ後の活動について仲間と深く掘り下げ検討したいです」など、これからの活動のヒントを見つけた方も。NPO について知りたい方、サポセンに来たことがない方、お一人でもお気軽にご参加ください。

(難波未由希)

▶ NPOいろは塾に参加してみよう！

6 月の「NPO いろは塾」のお申込み受付中です！他日程のお申込み開始は、市政だよりやサポートセンターホームページにてお知らせいたします。

- 6/29 (土) 14:00 ～ 15:30
- 7/14 (日) 10:00 ～ 11:30
- 11/6 (水) 19:00 ～ 20:30
- 12/7 (土) 14:00 ～ 15:30
- 2/未定 (?) 詳細は、11 月以降！

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

① 事務用ブースの使用者募集！

使用期間：9 月～平成 26 年 8 月 / 対象：継続的に市民公益活動を行い、市内に専用事務所を持たない団体 (企業を除く) / 募集数:5 ブース / 設備等 : 机・椅子・ロッカー。面積 4 ㎡ / 使用料：月額 7,000 円

② ロッカー・レターケースの使用者募集！！

設備・募集数	使用期間	対象	使用料
ロッカー大・10 台 (抽選)	9 月 1 日～平成 26 年 8 月 31 日	継続的に市民公益活動を行っている団体 (企業を除く)	1,200 円 / 月
ロッカー中・28 台 (抽選)			800 円 / 月
ロッカー小・80 台 (抽選)			400 円 / 月
レターケース・168 箱 (先着順)			無料

お申込 / お問い合わせ

① 市役所二日町第四仮庁舎 (アーバンネット勾当台ビル)2 階市民協働推進課と、市民活動サポートセンターで 6 月 10 日から配布する申込用紙 (市 HP からもダウンロード可) で 7 月 12 日まで。
/ 市民協働推進課 (214-8002)

② 市民活動サポートセンターで配布する申込用紙で、6 月 10 日～ 7 月 21 日の午前 9 時～午後 9 時 (日祝は午後 5 時) まで。/ 市民活動サポートセンター (212-3010)

つながる　つなげる　サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▷仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

▶相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンター とシニア活動支援センターの相談窓口を 3 階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

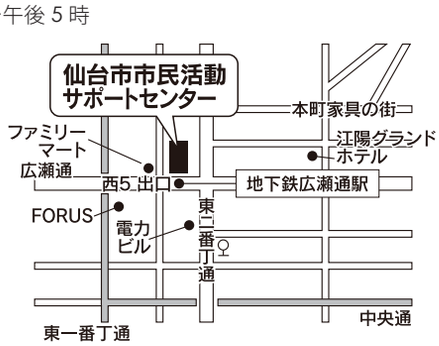
このようなご相談おまかせください

- 市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- 団体運営、組織運営
- 復興支援活動
- シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- 平日 : 午前 10 時～午後 8 時
- 日祝 : 午前 10 時～午後 5 時

▷ご案内図



○ ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前
[地下鉄] 広瀬通駅下車、西 5 番出口すぐ

○ 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

▷「ぱれっと」読者アンケートにご協力をお願いします！

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の 2 次元バーコードを読み取ってご利用ください。

編集後記：

「仙台青葉まつり」が終わると、季節が春から初夏へと変わっていくのを感じます。これから仙台は本格的なイベントシーズンに突入。「七夕祭り」「ジャズフェス」「光のページェント」…その他にも仙台の街中を舞台に、市民の手で作り上げられるイベントはたくさんあります。一度といわず二度三度、仙台へお越しください。

発　行：**仙台市市民活動サポートセンター**
仙台市シニア活動支援センター
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目 1-3
TEL　022-212-3010　FAX　022-268-4042
HP　http://www.sapo-sen.jp
Blog　http://blog.canpan.info/fukkou/
発行日：2013 年 6 月 11 日
編　集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
編集人：菊地竜生　菅野祥子　太田貴　葛西淳子　松村翔子

▽開館時間

平日 : 午前 9 時～午後 10 時 / 日祝 : 午前 9 時～午後 6 時

▼休館日

毎月第 2・第 4 水曜日 (祝日の場合は翌日木曜日)
及び、年末年始 (12/29 ～ 1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010 年 4 年 1 日～ 2015 年 3 月 31 日]